

情報共有 3枚 (非管理メモ)

宮野班, NISA班 ← プレス対応チーム

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時: 平成 23 年 7 月 18 日 (月) 11:00~11:35

場所: 東京電力本館 3 階大会議室

先方: 記者約 25 名 (カメラ 3 台)

当方: 原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料:

- ・ 福島第一原子力発電所プラント関連パラメータ (7月18日6時現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (7月18日)

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑:

Q. 3号機タービン建屋への屋根パネル設置作業は、何時に終了するのか。

A. 本日8時30分より作業開始しているが、終了予定時刻は決めていない。パネルをつり込むクレーンの先端に遠隔操作の監視カメラを設置しており、その映像を確認しながら屋根パネルを設置していくことになるが、障害物によりうまく設置できない場合については、作業員が直接屋上に行き微調整を行う可能性がある。

Q. 福島第一原子力発電所の仮設防潮堤の設置状況は。

A. 7月1日より遮水シートに保護層の吹き付けと後片づけを実施している。本日最終確認し設置完了する予定。

Q. これまで実施してきた台風対策について総括をお願いしたい。

A. 大きく風と雨対策を実施してきた。風対策としては、屋外の仮設設備に対してロープで捕縛を実施している。雨対策としては、建屋内への水の浸入を防ぐため扉やシャッター部分に土のうを設置している。また本日実施中の3号機タービン建屋屋上の雨水対策についても台風が来る前に実施できることになる。海洋関連の作業としては、循環型海水浄化装置、鋼管矢板設置工事、メガフロートへの移送等は中断している。これまで考えられる対策は取ることができたと思うが、引き続き台風接近に伴い、屋外のパトロールを実施していきたい。

Q. 1号機原子炉への注水流量は現在のところ変化はないのか。

A. 今のところ変化はないが、1、2号機は流量をかなり絞った運用を実施している関係上、流量が変動しやすい状況であるため、継続して監視を行う必要があると考えている。

Q. 昨日実施した注水ポンプ切り替えによる影響はないのか。

A. これまで1, 2, 3号機の原子炉へ注水するためにそれぞれ1台ずつポンプを設置していたが、流量が小さいこともあり、現在は2号機用のポンプで1, 2号機へ注水している。今のところ、ポンプ切替えによる影響はないと考えている。

Q. ベッセル交換をフラッシングなしで実施するのは今回が初めてか。またベッセルの表面線量は。

A. 作業としてはこれまでも実施している。交換の際にフラッシングするかどうかについては、表面線量を見ながら作業員の被ばく線量との兼ね合いで決めている。今回については表面線量が小さいのでフラッシングは実施しない。なお、ベッセルの表面線量については確認させていただく。

Q. 3号機以外において、建屋の雨水対策の実施予定はあるのか。

A. 1号機については換気口の蓋が外れていたものを元に戻している。2, 4号機についてはルーフトレンの破損を確認しており、土のうにて閉塞し雨水の浸入を防いでいる。今回実施する3号機タービン建屋屋根パネル設置工事は、本日は一番大きな穴に対して実施するものであり、それ以外の穴に対しても今後屋根パネルを設置する予定。

Q. 3号機タービン建屋の穴の箇所は何か所あるのか。

A. 屋根パネルを設置することで雨水対策する箇所は2箇所ある。換気口も設置されているが、蓋を被せて修復済。ルーフトレンの土のう設置作業は明日実施予定。

Q. ルーフトレンが破損したままだと、建屋内に雨水が進入してくるのか。

A. 建屋内部を通過して排水する配管であるため、破損があることで雨が建屋内に漏れることを防ぐために土のうによる閉塞を行ったもの。

Q. 水処理装置の現在の処理量は。

A. 処理流量は39m³/hであり、その値からの向上は確認できていない。

Q. 50m³/hに処理量に戻すことへの見通しはあるのか。

A. 現時点で具体的な原因が分かっておらず対策ができていない。引き続き検討中である。

Q. ベッセル交換作業における作業時間は。また作業員の計画線量は。

A. 計画線量は1mSv程度である。基本的にはクレーンでの遠隔操作により交換を行うことになるが、接続ホースとロープを外す部分については作業員が直接現場で実施する。なお、現場で作業する時間については確認させていただく。

Q. 福島第二原子力発電所1号機残留熱除去系の工事を昨日実施しているが、本日2号機で実施予定の作業についても1号機と同様の作業なのか。

A. 現在2号機の原子炉および使用済燃料プールは残留熱除去系にて冷却しているが、原子炉補機冷却系、補機冷却海水系が復旧したので、残留熱除去系を一旦停止し、使用済燃料プール専用の冷却浄化系に切り替えることを行う。作業としては1号機と同

様である。

Q. 日本女子サッカーが W 杯で優勝し、メンバーの中には東電出身者もいるが、東電としてコメントを頂きたい。

A. 今回の結果を大変喜ばしく思っている。世界の頂点に立った選手、監督、コーチ、関係者の皆さまにおめでとうございませう、とお伝えしたい。今大会を通じて最後まであきらめずに粘り強く戦うことで日本の方々に希望と感動を与えてくれたと思う。元マリーゼの鮫島選手と丸山選手の二人のご活躍についても大変勇気を与えられた。これからもチャレンジ精神を忘れずに頑張っ頂きたいと思う。

Q. 3号機タービン建屋屋上の小さな穴は明日塞ぐとのことだが、どのように実施するのか。

A. 準備でき次第、本日同様に屋根パネルを設置し穴を塞ぐ予定。

Q. 準備でき次第実施するとのことだが、本日実施する可能性もあるのか。

A. 明日以降の作業を予定している。

Q. 土のうによるルーフドレン破損部分の雨水対策について、福島事務所の会見では、2, 4号機は既に実施済であり3号機は明日実施予定とのことだが、事実関係は。

A. 2, 4号機に関しては6月中に設置完了しており、3号機については明日設置する予定。

Q. 3号機タービン建屋開口部の小さい方の穴の大きさは。

A. 確認させていただく。

<けが人発生のご報告>

本日 10 時 06 分頃、正門付近の電柱で中継ボックス内にある光ケーブル設置作業を行っていた協力企業の作業員が約 3 m の高さから落下した。現在意識はあるものの、自力歩行ができない状況。10 時 40 分頃に福島第一原子力発電所医務室にて医師の診察を受け、福島第二原子力発電所に搬送する。その後についてはドクターヘリにて病院に運ぶことになる予定。作業員の年齢は 40 歳台の男性であり、経験年数や被ばく線量については不明である。

以上

情報共有 4枚 (非管理メモ)

宮部班, NISA班 ← プレス対応チーム

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時: 平成 23 年 7 月 18 日 (月) 18:00~18:45

場所: 東京電力本館 3 階大会議室

先方: 記者約 30 名 (カメラ 3 台)

当方: 原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料:

- ・ 福島第一原子力発電所の状況
- ・ 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について (第 115 報)
- ・ 福島第一原子力発電所付近の海水からの放射線物質の検出について (第 117 報)
- ・ 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について (7 月 17 日採取分)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (7 月 18 日 12:00 現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 3 号機タービン建屋 屋根設置工事の作業状況

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑:

Q. 明日ステップ 2 の内容を発表する予定だが、当日の段取りについて教えてほしい。

A. まだ聞いていないが、政府から発表があるものと考えている。

Q. 東電の工程表を政府が発表するのか。

A. おそらく明日の夕方、政府と東電の統合対策室として発表するものと考えている。

Q. 3 号機タービン建屋屋上へのデッキプレート設置作業の終了時刻は。

A. 8 時 30 分に開始し、14 時 40 分に終了している。

Q. 3 号機タービン建屋屋上へのデッキプレート設置作業において作業員が建屋屋上に上った理由は。

A. 遠隔操作での作業予定であったが、念のため作業員が微調整のために屋上に上ったもの。

Q. 明日修復予定の小さい方の穴に設置予定のパネルのサイズは。また開口部の穴の大きさは。

A. パネルサイズは、縦 3.5m、横 12.5m、高さ 0.4m であり、重さは約 3 トンである。開口部の大きさについては、大きい穴は東西方向で 14m、南北方向で 11m。小さい

穴は東西方向で2 m、南北方向で5 mである。

Q. 作業員が現場屋上に行かなければならなかった詳細な理由は。

A. 現場判断であるが、パネルとパネルをうまく重なるように設置する、あるいはがれきに阻まれることを未然に防止する、といった事を考慮し効率的に作業を行うため。

Q. パネルとパネルをうまく重なるように設置するとのことだが、詳細は。

A. 屋上部に傾斜がついており、ルーフドレンに流れるようになっているが、その調整を行うことになる。

Q. 3号機タービン建屋屋上へのデッキプレート設置作業において、退避に時間がかかったとのことで作業員の被ばく線量が12mSvと計画線量を超えているが、その理由についてどのように考えているのか。

A. 建屋屋上へは搭乗籠を用いて昇降するため、作業員の移動に時間を要したものと考えている。

Q. 3号機タービン建屋屋上へのデッキプレート設置作業については、当初どの程度の作業時間を想定していたのか。

A. 設置箇所の雰囲気線量が20mSv/h、計画線量が10mSvとすると、作業時間としては30分程度を見込んでいた。

Q. 被ばく線量が12mSvであった作業員以外の4名の被ばく線量は。また、計画線量を超えた作業員はこの1名のみか。

A. 確認させていただく。

Q. 計画線量の扱いについては、先日の3号機窒素封入の配管接続作業の際にも計画線量超えがあったが、この値はあくまでも目安なのか。それともきっちり守る必要があるものとして設定されているのか。

A. 計画線量については2面性があると考えている。一方は法律的なものではなく、あくまでも目安として管理しているものであるが、もう一方で計画線量を守って作業員の被ばく低減を図ることが必要である。空間線量率や作業時間を勘案し、必要に応じて作業時間の短縮や作業員の交代等を検討し、被ばく線量をさげる努力をすることが重要であるが、予想以上に移動時間がかかったり、指揮者として多くの指示を行ったりすると計画線量を超える事象が発生するため、そのような経験を次の作業に活かしたいと考えている。

Q. ベッセル交換作業の計画線量は3 mSvであるとのことだが、午前中の会見では1 mSvと話しており、結果として余裕を見た計画線量になっている。計画線量の考えた方が統一的でないと思うのだが、この点に関する見解は。

A. 当初ベッセル交換には3、4時間程度かかると想定していたが、実際の交換作業は約1.5時間程度であった。作業時間が約半分近くに減ることで、実績線量としても0.5~0.6mSvになったが、繰り返し実施する作業はフィードバックが活かされて

いると考えており、逆に初めての作業については計画線量を遵守できないこともあると考えている。

Q. 小さな穴をデッキプレートで塞ぐことで、屋上に設置するものとしては最後という理解でよいか。

A. 小さな穴とベンチレータに蓋を設置する作業を明日実施予定。天候により延期する可能性もある。

Q. 他号機にも穴があいていると思うが、閉塞作業の予定は。

A. 1号機についてはベンチレータが3箇所あいていたが、既に蓋を設置している。2号機についてはルーフドレンが2箇所破損していたが、6月に土のうを設置して対策している。4号機についてはルーフドレンが1箇所破損しているが、こちらも土のうで既に塞いでいる。

Q. 土のうを設置している箇所については、デッキプレートの設置は行わないという理解でよいか。

A. 土のうを設置することで雨水の浸入は防ぐことができるので、これ以上設置する予定はない。

Q. 3号機の開口部は大きな穴、小さな穴、ベンチレータの3箇所という理解でよいか。

A. 穴を塞ぐという意味ではその通り。

Q. ベンチレータの大きさは。

A. 大きさについては確認させていただく。なお、ベンチレータに設置する蓋の大きさは、縦3.5m、横4.5m、高さ0.4mである。

Q. 明日で作業完了するという理解でよいか。

A. 天候が良好であれば1日で完了すると考えている。

Q. 3号機タービン建屋屋上のベンチレータの穴が開いているが、通常時も穴が開いているものなのか。

A. 通常時はベンチレータに蓋が付いている。水素爆発により蓋が吹き飛んでしまい、穴が開いている状態になっている。

Q. なぜ、ルーフドレンを塞ぐ必要があるのか。

A. ルーフドレンの中の配管が破損しているため、天井に降った雨がルーフドレンを通じて、タービン建屋の中に流入してしまうためである。

Q. 1号機から4号機までのルーフドレンの数はどれくらいか。

A. 確認させていただく。

Q. 明日のルーフドレンを土のうで塞ぐ作業とベンチレータをデッキプレートで塞ぐ作

業は人手による作業か。

A. ルーフドレンを土のうで塞ぐ作業については人手作業の予定である。ベンチレータをデッキプレートで塞ぐ作業についてはクレーンによる作業になると思う。

Q. 明日は、大きな穴を塞いだデッキプレートの周りに土のうを設置する予定か。

A. その通り。

Q. 3号機のタービン建屋屋根設置工事で、作業員はどこから昇降しているのか。

A. S/B屋上部からタービン建屋屋根へアクセスするハシゴ近傍は高線量であり、作業員が遮へい防護ベストを装着していたことから、クレーンの搭乗籠に乗りタービン建屋屋根へアクセスした。

Q. 3号機タービン建屋の穴に屋根を設置することによって、どの程度、雨の影響が改善されるのか。

A. 相当量、改善すると思う。実際の降水量からタービン建屋の溜まり水の水位の上昇量を確認して評価してまいりたい。

Q. 水処理装置の流量が 37m³/h に減少している原因を調査する予定は。

A. 作業予定は決まっていない。机上での評価を進めながら、37m³/h で水処理を継続していく。

以上